

# 1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2692600030
法人名	社会福祉法人 みつみ福祉会
事業所名	グループホーム とだ
所在地	〒620-0801 京都府福知山市字戸田小字宮ノ段82 (電話) 0773-20-1788

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年4月28日

## 【情報提供票より】(平成21年2月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 7 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	9.0 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円 )	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	80 円
	または 1日あたり 円			

### (4) 利用者の概要( 2 月 3 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	78 歳	最高	87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都ルネス病院 山崎歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

児童福祉事業のために50年前に設立された法人本部は兵庫県にあるが、2002年に福知山市で特養を立ち上げ、現在は障害分野、児童分野を含め多種多様な事業所を福知山市で展開している。「グループホームとだ」は綾部市に近い石原(いさ)地区にあり、新築の和風住宅である。ホーム内はゆつたりとして、全面ガラス戸から日が入り、外の保育園の子どもたちの様子を見ることができる。あたりに住宅は少ないが、利用者が散歩したり、畑作業をしたりしているので、地域の人を知ってもらえてきている。家族は面会も多く、家族交流会を再々行っており、毎月の家族への手紙等もあり、事業所と家族は良好な関係ができています。管理者は前任者から引き継いで1年弱であるが、認知症について理解が深く、内に秘めた静かなパワーでがんばっている。食事が手作りでおいしく、畑仕事をはじめさまざまな余暇活動に取り組んでいる。利用者はそれぞれの暮らしを楽しんでおり、自己主張ができる関係ができています。さらに認知症ケアについて研修を深めることによって、サービスの質が向上することが期待される。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の際に指摘された点を改善したいと取り組んできたが、利用者への対応を第一にしているので、一進一退だと感じている。利用者の水分摂取量の記録は改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価にあたって、自己評価は職員全員に意見を聞き、まとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	要綱に基づいて、メンバーは家族、地域住民、福知山市介護保険課職員などで2カ月に1回開催し、議事録が残されている。状況報告に対して活発な意見交換がなされており、地域情報を得ている。誤薬の危険防止のためにはダブルチェックにするなど、アドバイスがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月家族交流会を開催している。行事食を利用者と一緒に食べたり、時には家族が飯盒炊爨でカレーをつくり、一緒に食べたり、園庭でバーベキューをしたり、たこ焼きパーティやいちご大福をつかって茶話会など、さまざまに工夫して取り組んでいる。毎回6~7家族が参加され、お互いに交流されている。職員により対応がバラバラだという意見があり、話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には年会費を納入しているが加入させてもらっていない。開設にあたって反対していた人もいた。民生委員とは連携している。石原地区も文化祭には利用者の作品を出展している。地域の祭りに参加している。同じ法人の保育園が隣接してあるので、子どもたちと日常的に交流している。野菜をいただく近隣の住民には、餅つきでついた餅や手作りのイチゴ大福などをお返ししている。地域の婦人会には外出支援など、お世話になっている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「共生」を踏まえて、グループホームの理念は「気配りと目配り、そして心配り」を掲げ、パンフレットに明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に則って利用者と共に生活すること、利用者の感情や性格をくみとって対応することが大事だということを職員と常に話し合っている。職員によっては難しい面がある。介護をしているという自己満足が強い職員もいると管理者は感じている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には年会費を納入しているが加入させてもらっていない。開設にあたって反対していた人もいる。民生委員とは連携している。石原地区の文化祭には利用者の作品を出展しており、地域の祭りにも参加している。同法人の保育園が隣接しており、子どもたちと日常的に交流している。野菜をいただく近隣の住民には、餅つきでついた餅や手作りのイチゴ大福などをお返している。地域の婦人会には外出支援など、お世話になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価にあたって、自己評価は職員全員に意見を聞き、まとめている。前回の評価の際に指摘された点を改善したいと取り組んできたが、利用者への対応を第一にしており、改善は一進一退だと感じている。利用者の水分摂取量の記録は改善できている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱に基づいて、メンバーは家族、地域住民、福知山市介護保険課職員などで2カ月に1回開催し、議事録が残されている。状況報告に対して活発な意見交換がなされており、地域情報を得ている。誤薬の危険防止のためにはダブルチェックにするなど、アドバイスがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは相談など、連携をとっている。福知山市の地域密着型事業所連絡会があり、参加して情報交換している。保健所主催の市民向け認知症研修や民生委員向けの研修の講師をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌は発行されていないが、家族には毎月担当職員が利用者の様子を書いた手書きのお便りを送付し、喜ばれている。面会は毎週来る人から3カ月に1回くらいの人までいろいろだが、面会の時には情報交換している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族交流会を開催し、行事食を利用者と一緒に食べたり、時には家族が飯盒炊爨でカレーをつくり、一緒に食べたり、園庭でパーベキューをしたり、たこ焼きパーティやいちご大福をつくって茶話会など、さまざまに工夫して取り組んでいる。毎回6～7家族が参加し、お互いに交流している。職員により対応がバラバラだという意見があり、改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の都合による管理者の交代や職員の結婚退職などが昨年あり、現管理者が態勢づくりに努力している。また利用者の不安への取り組みに力を入れている。離職を防ぐためには懇親会等の楽しいことに取り組んだり、人間関係のストレスはじっくりと話を聞くことに努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修の両方の計画を立てている。内部研修は感染症、食中毒、リハビリテーションなどを実施している。外部研修は介護職のためのスキルアップ講座を受講しており、接遇やICF等の内容を受講している。グループホーム全国フォーラムにも参加している。資格取得の支援もなされており、資格手当が支給される。職員それぞれの課題は年2回、法人本部の上司が面接し、振り返りもなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福知山市の地域密着型事業所連絡会があり、管理者は参加している。また京都府北部地域グループホーム連絡会主催の研修会が隔月に実施されているので、管理者が参加している。職員が綾部市のグループホームたのやまに2日間研修に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には見学にきてもらうことを勧めており、利用者や家族が見学に来ている。利用が始まると、馴染んでもらうまでは家族に度々面会に来てもらったり、隔日に外泊をし、その回数をだんだん減らしていったりなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は法人の理念である「共生」をグループホームの毎日の生活で実現したいと考えている。それは利用者とともに生活することである。利用者からは日々学ぶことが多い。利用者と接していると人間の可能性の大きさを実感する。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の情報は家族構成、住環境、家での生活の状況、介護者の状況、利用している介護サービスの情報、医療情報等々を収集している。利用者担当職員を決めており、その職員がセンター方式でアセスメントを行っている。簡単な生活歴と趣味・嗜好等が記録されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	上記のアセスメントをふまえて、ケアマネジャーが介護計画の案をたて、職員会議で検討している。生活歴や趣味・嗜好などが介護計画へ反映されているものが少ない。	○	利用者や家族は望む生活像について、明確に表明することは難しいと思われるので、アセスメントで得た情報を介護計画に反映すること、身体介護のみならず、生きがいのある生活になるように、楽しみの項目を入れることが望まれる。また介護計画は利用者一人ひとりに個別・具体的であることが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について、毎月モニタリングを行っている。毎日のケース記録は「生活の状況」「考察」「記録者名」の欄があり、記録されている。なるべく介護計画にそった記録にする努力がなされているが、職員によるバラつきがあり、ケアが実施できなかったときの考察が書かれていない。	○	ケース記録はモニタリングの根拠となるものであり、ケアを実施したかどうか、そのときの利用者の表情や言葉、また実施できなかったときはその原因等の考察を書くことが望まれる。カンファレンス会議の記録はそのときの意見をいろいろ書いたほうが職員のレベルアップになるとともに、ケアの工夫につながると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性と生かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容院や理容店には家族に同行してもらっている。また訪問美容師もきてくれる。個別外出にも応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族にお願いしているが、情報をサマリーとして渡しており、医師からの情報も入手している。協力医は2週間に1回往診してくれる。認知症など神経内科等の受診には家族とともに同行している。認知症専門医との連携もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに関して方針は確定していない。家族はできればここでお願いしたいという希望が多い。職員は最期までお世話したいと、重度化すれば特養へと、両方の意見がある。いま医師の協力について話し合っている。	○	ターミナルケアについては職員とともに十分話し合い、実施するかどうかという方針を決め、明文化することが望まれる。そのうえで方針をもとに、利用者や家族と話しあい、意向を確認することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室もトイレもなかから鍵をかけることができ、かける人もいる。トイレ誘導などの声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課は決まっているが、起床も就寝も利用者の自由である。朝食を食べる時間はバラバラである。外に行きたい希望や入浴の希望にも、できるかぎりそのときに応じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は夜勤、昼食は早出、夕食は日勤が当番となり、利用者の希望も聞いて献立を考え、食材の買い物に行き、利用者と一緒に調理している。利用者はもりつけやテーブル拭きなどもしている。昔からの食べなれた和風献立で、カニすきなどの鍋料理もある。外食には年2回出かけている。毎週手作りおやつの日があり、利用者の楽しみである。節分にはまき寿司をつくった。職員も共に食べながら、会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭風呂より少し広めの浴室で、週2回以上を支援している。マンツーマンの同性介助である。時間帯は利用者の希望にあわせており、午後から夜8時半までに対応している。ゆず風呂やしょうぶ湯も楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は農作業をしてきた人が多く、ホームの畑や花壇での作業が楽しみである。草引きを自分の仕事と考えている利用者もいる。掃除機のフィルター掃除、ワックスかけ、買い物や食事の支度、ランチョンマットを縫うなどが役割として果たされている。計算ドリル、ジグソーパズル、トランプ、輪投げ、貼り絵、カレンダーづくり、布ぞうり作り、カキミ作り、収穫したずいきの料理やゴーヤの佃煮作りなどを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は少なくとも週に2回は近くの公園や神社に散歩などをしていく。浦島神社、福祉祭り、夜久野ドライブインまでの山々で紅葉狩り、クリスマスイルミネーションを見に行く、天の橋立や神戸の麒麟ビール工場と花鳥園などへの日帰り旅行などもしている。利用者の個別外出は家族に伝えてお願いしているが、職員が同行する場合もある。両親の死が認識できない利用者には毎月お墓に同行している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地に柵はなく、建物の玄関ドアを含めて、勝手口なども日中は施錠されていない。近くの住民が利用者の顔を知っており、話しかけてくれたりするので、安心である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災について消火器、通報機、感知器、スプリンクラー等を備え、防火管理者を設置している。消防計画があり、備蓄を備えている。夜間想定も含めた避難訓練を実施している。地域との連携を踏まえた防災協定書はないが、運営推進会議で提案し、お願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎日の食事摂取量と水分摂取量については記録に残している。献立のカロリー値や栄養バランスについて記録がない。	○	献立のカロリー値と栄養バランスについて、1カ月に1回くらいは点検し、記録に残すことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にベンチをおき、プランターに三色スミレなどが咲いている。玄関に下駄箱があり、左手が居間兼食堂になっている。台所はオープンキッチンで、3つの食卓と椅子があり、堀コタツのある畳コーナーもある。テレビの前には大きなソファが置かれ、全面ガラス戸から陽が入る。本棚には本や写真集、ラックに新聞が入っている。玄関の右手に居室が並んでおり、廊下の隅に椅子とテーブルが置かれ、家族が来訪したときなどに使われている。建物の外には畑や花壇があり、利用者の楽しみとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間で、ベッド、クローゼット、トイレ、洗面台が各室に備え付けられている。利用者は椅子、タンス、冷蔵庫等を持ち込み、自分の居室としている。テレビ、時計などを置き、大きな位牌を持ち込んでいる人もいる。ぬいぐるみなどを飾っている。		